

(平成16年2月時点)

地域水田農業ビジョン策定に係る取組事例

市町村名 富山県西砺波郡福光町

☆富山県の西南端に位置し、標高は最高1,571.6m(医王連山)、最低60mで東西に11.1km、南北に27.5km、周囲92.6kmの南北に長い地形をなし、小矢部川及び諸支流が地域を北流し、段丘平野と洪積平野が展開している。平坦地帯の耕地は大部分整備されているが、小規模区画のものも若干残っている。

☆農業に対しては情熱的で、農業者・JA・町が一体となり、米を中心として先進的に集落営農等に取り組むなか、適地適作で特産品の富山干柿、銀杏や米菓などにも対応する一町一農場を提唱している。



取組のポイント

- ☆地域振興計画に基づき、一町一農場方式で「米」を中心とした経営対策の推進
- ☆安全・安心な農産物を供給するために、トレーサビリティの徹底と情報開示の実施

取組のキーワード

★★一町一農場によるビジョンづくり★★



(福光地域水田農業推進協議会)



(次代を担う子供たちと地域農業とのふれあい)

取組内容

- JAらしさを発揮した「農と共生の地域づくり」に昭和52年から継続すること27年間、「協同活動強化運動」を展開して3年ごとに見直ししながら実践にしてきた。すでに、「10次3ヶ年運動」の取り組みをスタートさせ「農産物づくり」や「担い手づくり」など地域農業振興計画について、農業者・農協・町で三位一体で議論・審議による方向付けの全地区報告審議会等も行ってきた。
- これに基づき、ワーキングチーム、地区担当営農指導員会議、福光町水田農業ビジョン策定推進協議会、水田農業推進協議会で検討してビジョンの策定を行う。また、「福光町の米づくりを考える」フォーラムを開催（120農家が出席）し、農業者とともに、地域農業のビジョンの検討に努めた。
- 作物生産としては、大豆、大麦を中心に積極的に取組ながらも、地産地消につながるものや特産品の振興、加えて地力増強のため緑肥作物のローテーション作付の推進。
- 担い手育成については、昭和50年代半ばから集落営農を進め、現在は全地区で35集落で完全協業型集落営農方式を行っている。今後、これらの法人化移行を計画的に実施。また、共同作業形態を協業経営に、認定農業者基準の見直しをして意欲ある個人農家の掘り起こしを地区別に目標数値を設定して推進。

地域からのメッセージ

- ・地域の総意による「米」を中心とする農業を確立するために、中山間地域を含めた中での適地適作の推進、食の安全・安心等にも対応すべき体制、施設の整備により一町一農場方式で取り組みます。
- ・さらに、農業経営も集落営農、認定農業者等のみに限定しない、個別農業者も含めた集落機能を活かした農村づくりを目指します。

策定スケジュール

- 15年 5月 農業ビジョンワーキンググループ会議（9回開催）
- 8月 農業ビジョン専門検討委員会（2回開催）
- 10月 福光町水田農業ビジョン策定推進協議会発足（2回開催）
- 11月 「福光町の米づくりを考える」フォーラム開催
- 12月 福光町地域水田農業推進協議会（12／26）
（平成16年産米の生産目標数量等の配分の決定）
上記のほか、JAで生産者代表・女性部代表・実需者により6回の検討会を開催
- 16年 1月 各支所ごとに生産・販売計画を説明
- 2月 集落座談会で合意形成を図る
- ～3月 **ビジョン案の決定**
- 4月 福光地域水田農業推進協議会発足

推進体制(概略)

農業者・集落営農組織・認定(中核) 農業者・町民

